

つながり作り

各民生児童委員個々の日常的な活動のほか、各民児協ではそれぞれがイベントの開催や地域の行事に参加するなど、地域のつながりを太くする活動にも取り組んでいます。それぞれの地域がそれぞれの特徴を生かしながら地域のために活動しています。ぜひご参加ください。



新舞鶴民児協の「ひとり暮らし高齢者ふれあいの集い」。コロナのため数年中止が続いていますが、例年10月に開催し、高齢者の交流の場を作っています。



東舞鶴公園で開催された「第1回さくらまつり」。森民児協、行永民児協の民生児童委員が準備、受け付け、司会進行、写真撮影などを実施しました。



城北中校区の各民生児童委員では毎年フジバカマの植え付けをし、アサギマダラを呼び取り組みをしています。



余部下民児協では「子育ての集い」をコロナ禍のため「子育て訪問」に切り替え、子ども達や母親と交流をしています。



行永民児協では青葉中学生とともに、青葉中学生が作成したクリスマスカードと苗木を携え、地域の高齢者宅訪問を実施しました。



行永民児協と一緒に高齢者宅を訪問した
左から、今岡優人さん、芦田悠人さん、畑中晴斗さん

「孫みたい」と言ってもらえたりして、地域の温かさや地域を守っていく、作っていくことの大切さを実感しました。

INTERVIEW

◆時間をかけてゆつくりと

民生児童委員の活動を始めて3期目になります。初めは自宅を訪問しても「元氣だから来てもらわなくてもいい」「チラシなんかあつたらポスト入れといて」と言われたことがあります。どうしようかと思いましたが、チラシを入れるにしても一筆「お変わりありませんか」と書いてポストに入れていました。それを続けるうちに、訪問した際の対応もだんだん変わってきて、最近は訪問したら30分も40分も話ができるようになりました。話す内容は世間話から始まり体調のこと、日常生活のこと、



民生児童委員連盟 副会長
由良川民生児童委員協議会 会長
加藤 喜美子 さん

つながりが大切

自分の楽しみなことなどの話をしてくださいます。私の住んでいる所が田舎なので畑で話すこともあります。お話をすることでつながりを感じます。

◆やるからには楽しく

民生児童委員になった時は「やらないといけないな」というところから出発しました。実際にやってみると、いろんな人と仲良くなれたし、いろんな話ができるようになりました。誰の顔を見ても話ができるようになったりもしましたし、自分の心が豊かになってきたと、学べるが多かったなと

思っています。
ある人に「どうせやるなら楽しく」ということを教えてもらいました。まさにそのとおりの思いです。私の地域ではみんながその気持ちで活動しようと話しています。チラシの配布一つにしても、物のとらえ方次第で気持ちもやり方も変わります。

◆つながりをもって

コロナ禍では民生児童委員同士の交流もなかなかできず、顔写真入りの会報を作つてようやく民生児童委員同士でも顔と名前が一致したということがありました。これは民生児童委員同士に限ったことではなく、地域の人も同じことが言えます。なかなか活動しづらい部分があるので、行事も開催を控え、交流の場が減っています。今後そのあたりをどうしていくか考えていきたいと思っています。

やはりつながりはとても大切です。「久しぶりやな」とって会話だけでも、やっぱり昨日とは違う気分になり「また明日も頑張るか」とって気持ちになる。これま地域に守られ、支えられてやってこれたのでこれから先、地域にとって何がいいのか、何ができるのかを今後も考えながら活動していきたいと思えます。



今年は民生児童委員の一斉改選の年

3年の任期を終え、今年12月に民生児童委員の一斉改選が行われます。

民生児童委員は、地域で生活する誰もが安心して生活できるよう、暮らしを見守るボランティアです。それぞれの地域から選出され、住民の皆さんと手を携えながら、地域福祉の推進を担います。

民生児童委員は、地域の最も身近な相談役であること、自治会との連携による日頃の活動が欠かせないことから、候補者の推薦を自治会にお願いしています。それぞれの地域で候補者を決めるための話し合いを行うなど、切れ目のない円滑な改選となるよう、ご協力をお願いします。